

3.10.2 社会還元促進部門 情報システム室

室長 青木哲郎 ほか5名

情報インフラの整備・運用や情報セキュリティ維持を通して研究活動をサポート

【概要】

NICT 内の情報インフラである情報システム（共用ネットワーク、共用サーバ、外部接続ネットワーク、事務部門用共用パソコン、テレビ会議システム等）の整備・運用及び情報セキュリティの維持・監視を行い、高度な研究活動をサポートしている。

(1) 情報インフラの整備・運用

高度な情報インフラを整備することにより、役職員が利用する際の利便性を向上させるとともに、業務の効率化等を実現する。業務系情報システムの構築、改修、運用等を経営企画部と協力して効率化する。

(2) 情報セキュリティの維持・監視

NICT の情報システムを不正ソフトウェアの侵入等の不正アクセスから防護する。

(3) 研究開発のサポート

研究系の情報基盤構築をサポートし、研究成果の実証と外部への発信をサポートする。NICT で開発された技術を、NICT 内の実際のネットワークで実運用することにより、NICT 発技術のショーケースとしての役割を果たす。

【平成 23 年度の活動実績】

(1) 情報インフラの整備・運用

夏季の節電対策を契機として、総務部とともに事務部門職員向けテレワークシステムを構築した。セキュリティの維持を第一に考え、リモートデスクトップの活用により、情報漏えいが起きにくい方法でのテレワークを実現した。また、仮想化技術の活用などによりサーバの台数を減らすなど、情報インフラの効率的な運用を行い、運用コスト削減と利便性向上を両立させた。

(2) 情報セキュリティの確保

ネットワークセキュリティ研究所サイバーセキュリティ研究室の研究成果である NIRVANA (nicter real-network visual analyzer) を NICT 内ネットワークで運用し、NICT 内ネットワークを可視化してモニターすることによるセキュリティリスクの事前発見などを通じて NICT のセキュリティ確保に貢献した（図 1）。また、NIRVANA の実データ運用による知見を開発元にフィードバックすることによりシステムの改良に貢献した。



図 1 NIRVANA による NICT 内ネットワークトラフィックの監視（TV 会議の運用を監視している）。NICT 内のどの建物からどのサーバに向けてどのような種類のパケット（種類により色分けされている）が飛んでいるかをモニターしている。パケットをクリックすることにより、詳細な情報をリアルタイムで調べることが可能。